

# 大好き！絵本

初瀬 恵美



『なんでもない』  
作・絵:鈴木のりたけ  
出版社:アリス館

先日オンライン研修で、「主体性を、その人が世界と向き合うときの、その人らしい向き合い方と定義すると、あなたは何にこだわること、向き合いたいですか？」という宿題が出されていました。パネリストとして参加していた当園の保育士の慎ちゃんが「先入観を持たない」と答えました。それに対して講師の先生（汐見先生）が「ある調査では、私たちの話していることの98%くらいは、マスコミや人の意見で、なるほどと思うことを話しているにすぎない。…略…本当にこれが、私がこだわっているものなんだというものを見つけるためには、人の意見や、世間の意見は一回かっこに括弧において、それで自分が体で感じているものとか、自分の深い感性が求めているものにしっかりと向き合ってみよう。こういう社会だからこそ、「私」というものを大切にするには「先入観」を一回かっこに括弧しようという努力をしよう…ということですか？」と質問をされ、慎ちゃんは「そうです。」と答えていました。

私は、この話をきいていて、ドキリ！とさせられました。私は「先入観」をもって話していることが多いな～と。そして、その話の研修の後に出会ったのが、この絵本でした。「先入観をもって見ている、実はその相手は全く違うことを思ったり感じたりしていることもあるんだよ。」ということをおもしろ・おかしく描いているように感じました。

例えば、カラスが「のそつと じめんを はいまわる のろまな かめじゃなくて よかったわ。」と言うと、それに対してカメは「そんなの なんでもない いそいで やらなきゃ いけないことなんて おれには ひとつもないんだもの。はやく うごきまわる ひつようがないさ。えーと あしたの よていは ひなたぼっこ。あさっても ひなたぼっこ。はあ きもち いいぞ。いちにちじゅう たいようの とどかない つちの なかにいる モグラは かわいそうだよ。」と言いました。それに対してモグラも「そんなの なんでもない」といいます。理由はやっぱりちゃんとあります。次にもぐらは、ぞうのことをかわいそうと言い、…等々、言われたことを棚に上げて他の相手のことを「かわいそう」といいますが、言われた相手は「そんなの なんでもない」と言うのです。それぞれが、「私」というものを大切にしているのです。（裏表紙には、そうはいっても、上手くいかないこともある絵も描かれています。なんだか現実味があがり、それもまたこの絵本のいいところだと思います。）

この絵本の作者は「しごとば」シリーズや「ぼくの おふろ」など代表作が、沢山ある鈴木りたけさんです。鈴木さんは、mi:te(ミーテ)のインタビューの中で「子どもも大人も楽しめるというのは、絵本の魅力のひとつですよ。僕は絵本って舞台みたいなものだと思うんですよ。描かれているものを、自分の意志で目を動かして見ることができる。どこをどう見るか、どう感じるかは人それぞれで、見終わったあとに描かれていたことについて話し合うこともできる。」と語っていらっしゃいました。まさしくその通りで、子どもたちとみていると、目に飛び込んだ描写の発見を我先にと話してくれたり、それを共有して笑いあったり、すぎたページをもう一回見直して確認あったりと、とっても楽しい時間を育ませてくれる絵本でした。こんな楽しさを介して、「私」の想いを大切にすることや、「私」と「相手」の想いの違いがあることを感覚として感じとってくれたらな～と思いました。難しいことは抜きにして、親子で楽しむことができる、おすすめの一冊です！



誕生日おめでとう